

平成 2 2 年度 第 1 回

天草市景観審議会

会 議 録

天草市景観審議会

平成 2 2 年度 第 1 回 天草市景観審議会

開催日時	平成 2 2 年 7 月 3 0 日 午前 8 時から午後 3 時 3 0 分まで			
開催場所	御所浦町、倉岳町			
出席委員	蓑茂 壽太郎	篠原 亮太	位寄 和久	橋口 良一
	小山 真一	佐保 光康	中川 竹治	
欠席委員	西 英子	大日方 信春	古賀 充信	
委員以外の出席者	事務局	久保山 義教（建設部長） 大窪 光正（都市計画課長） 田中 真二（都市計画課） 宮本 雅浩（ " ）		
	その他	4 名（庁内関係課等）		
概要	<p>景観形成地域の指定に伴う景観計画の変更について、現地調査（視察）を実施。</p> <p>御所浦地区 景観形成地域の指定、景観形成基準の策定</p> <p>棚底地区について 景観形成地域の指定、景観形成基準の策定</p>			

会議の概要

1. 現地視察

(1) 御所浦町御所浦地区

弁天島の恐竜の足跡化石発見地

- ・ 地層年代は白亜紀の中頃（約9800万年前）の御所浦層群唐木崎層。
- ・ 九州初の恐竜の足跡化石発見地で、風化や波による浸食があり保護する必要があるため、平成20年3月に掘り上げ、御所浦白亜紀資料館で展示。
- ・ 化石の産出場所には、産状を知る事が出来るようレプリカをはめ込んでいる。

京泊の恐竜化石発見地

- ・ 地層年代は白亜紀の中頃（約9800万年前）
- ・ 発見地は満潮時に海に没することから、海上から視察。
- ・ 京泊は、1997年3月に御所浦島で最初に発見された恐竜化石産地。
- ・ 骨は鎧竜の脛と考えられており、恐竜化石産地の対岸には御所浦島だけに産出が知られる淡水生二枚貝トリゴニオイデス マツモトイ (*Trigonioides matsumotoi*) の化石産地がある。

採石場跡地

- ・ 採石後の崖が大きな露頭として残っており、露頭には大きな断層が見られ、多くの貝化石が含まれている。
- ・ 一般に開放している「トリゴニア砂岩化石採集場」の岩石はこの露頭から崩れ落ち、崖錐（がいすい）として溜まっているものを運搬してきたもの。

白亜紀の壁

- ・ 御所浦層群烏帽子層と江の口層（約9800万年前）の連続露頭を観察できる高さ200mの崖。
- ・ 崖の下部に恐竜化石を含む砂岩があり、日本最大級の肉食恐竜の歯化石が発見されている。
- ・ この露頭には下部の汽水域、中央部の河川から氾濫原の色彩豊かな岩石、中央部から上部で干潟の堆積岩を経て、江の口層の浅い海に溜まった砂岩へと堆積環境が変化している。
- ・ 複数の堆積環境の変化が観察できる、また、重要な化石も見つかっていることなど貴重な場所である。
- ・ 土石の採取における林地開発面積は約75ヘクタール。
- ・ 希少価値が高い地層の保存が必要な反面、視点場を考慮した植樹などの検討など賛否両論である。

天草市立御所浦白亜紀資料館

- ・ 天草地域から見つかる化石を中心に約 1000 点の標本が展示。
- ・ 天草地域の化石の学習や研究においても欠かせない施設であり、御所浦産の日本最大級の獣脚類（肉食恐竜）の歯化石や日本最古の大型ほ乳類をはじめ、アンモナイトや貝類など、豊富な展示化石がある。

烏峠

- ・ 山頂（442m）付近からグレイソニテスというアンモナイト化石が発見され、現地に野外展示されている。御所浦層群の時代決定にも使われ、示準化石とよばれる。
- ・ 天草の多島海地形やケスタ地形、日奈久断層の延長の走る八代海（不知火海）九州山地が一望でき、さらには阿蘇方面や雲仙普賢岳山頂も見渡せる。
- ・ 平成22年度に山頂の展望を利用した「大地の成り立ち」を説明する整備を行う。

棚底地区集落

- ・ 景観形成地域の指定（文化的景観の申出と並行して進行）
- ・ 景観形成基準の策定
- ・ 景観形成地域の指定及び策定に係る地域の課題

意見交換（倉岳支所会議室）

（会長）

視察後の短い時間ではあるが、委員の感想や意見をそれぞれ発表していただきたい。審議会の議題は、行政側からだけでなく、審議会の委員から提案し、新しい景観行政を模索する。そのような審議会があってもいいのではないかと。

今日の視察が、今後の具体的な審議が必要なものについての参考になるだろうし、景観行政の提案の基ができるのではないかと。

（委員）

ジオパークとしての意義はあるが、海上タクシーやフェリーを使ったルートを選定して整備する必要があるのではないかと。また、棚底の石垣は、地元の人にはごく普通の景色であるが財産になると思う。天草市や行政にとって、石垣の素晴らしい景観は絶対必要だと思う。

（委員）

天草市全体の森林の2割ぐらいが森林認証ということで、今後、この面積をベースとして、森林が景観の一つの背景ということを知らせていきたい。烏峠について、手入れ不足などがあったので指導していきたい。また、眺望について、森林で重要なものが眺望を阻害するのであれば、枝をすかさすなどの配慮が必要である。

（委員）

無秩序な開発が一番怖い。街なみ景観の保存は不可欠であるため、景観審議会や各

専門部会などを組織したり、地区振興会などからアイデアを出し合うことで、良好な景観を保存できるのではないかと。ただし、行政の力だけでは難しい部分があるので、地域のリーダーやキーマンを探し出すことが必要である。

(委員)

自然公園法では御所浦は一部しか国立公園になっていない。鳥峠がなぜ国立公園に指定されていないのか不思議に思う。御所浦港から見える鳥峠の景観が、今の状態で保たれるよう景観条例で規制をかけるなどしてもらいたい。地元への理解を深め、ジオパーク構想の中で利用される施設等を活用し連携を図れればと考える。

(委員)

ジオパークの説明には感銘を受けた。ガイド同伴のツアーが組めたらいいと思う。棚底の石垣には驚いたが、何か調査をしているのか。

(事務局)

文化的景観の選定に向けて調査を実施しているが、調査期間については未定である。

(委員)

非常に珍しい景観だと思うので、保存して活用していただきたい。

(会長)

天草の景観を考えると、自然景観、文化的景観がある。天草のジオパークは、熊本城の400年、鞠智城の1,300年の歴史と比べると、何千万年前ということで、すごい魅力を感じる。年月の長さを表にして、景観という観点で見えていけば、何か新しい方策ができるのではないかと。

鳥峠と六郎次山、さらにそれらより低い十万山、また牛深の遠見山など展望が違ふ場所を見ると、合併した天草市がよく分かるようになる。それぞれの町の山の展望を考え、整備すればいいと思う。

棚底以外にも、天草にはもっと発見されていない文化的景観があるのではないかと。さまざまな所に目を配りながら、教会、大江・崎津の景観、ジオパークや石垣群、さらにそれらに絡む文化的景観があればいいと思う。

自然景観、文化的景観、それから化石が発見できる景観、この3種類の景観を楽しむのが天草であり、その中で景観からの島づくりを始める。

天草を車で見る時と海から見る時では全く違って来る。御所浦島を一周するように、天草を一周するようなガイド付きのクルージングがあればいい。また、旧道をどう活用するのか、それと新しい道が開通した後、どのようなメリットがあるか、その点を配慮しながら検討するとおもしろい。また、海上交通についても同じ。

(委員)

採掘現場には、地層が露出する。採掘後の緑地化について行政指導をしがちだが、今回感じたのは、違う視点で見た時は違った景観があるように、現場の状況等に応じた指導も必要である。

(会長)

現地の壁に地層の紹介パネルを置く。また、船のガラスを工夫し、窓越しに地層が分かるようにするとおもしろい。パネルを鉄やプラスチック作製するのは反対だが、木材で作製して管理すればいい。

(委員)

そういうことを考えるのも楽しい。

御所浦の土石採取の期間等はどうなっているのか。

(事務局)

2社でおおよそ760,000㎡。期間は2社で異なるが、平成24年3月31日までとなっている。

(委員)

棚底の石垣を全て繋いだら何メートルになるのか。

(事務局)

現在調査を実施しているが、100数基確認されている。調査は熊本大学にお願いしてある。棚底城跡が国指定になり、石垣群全体を含めた文化的景観の保存計画と棚底城周辺の保存計画を今年度から来年度にかけて作成する。

(委員)

石垣に番号をつけて、スタンプラリーをやるとおもしろい。

石垣は全部で何種類あるのか。

(事務局)

地元の方が番号を付けて写真に収めている。

(委員)

石垣を積んでいる家を建て替えたい場合に、高さ等の指導はあるのか。

(事務局)

今後の調査により、何が大切なのか、何が景観構成要素なのかを検討する。景観条例に基づく景観形成地域に指定し、景観の誘導を図る。

以上